

タマリハ西片先生に聞く!

タマリハ新聞

第5号
発行所
多摩リハビリ
テーション学院



言語聴覚士になってからの貴重な経験

様々な経験を経てSTを選んだ理由



STになる前は不動産会社の営業をしていました。渋谷のスクランブル交差点で声掛けをしたり、まじめに営業したりしていました。フィットネスのインストラクターの経験もありますし、実は養豚場に勤務していたこともあります！趣味の登山は社会人のグループでヒマラヤにも行きました。マッシュヤーブルム付近の6000m級の山々に登頂しました。そして帰国したら日本は一気に不景気に…。大手電機メーカーでのノートパソコンの製造に派遣されて働いていましたが、かねてから興味があった医療の資格を取ろうと思いつき、青梅にある多摩リハビリテーション学院に進学を決めました。

当時夜間4年制の言語療法学科は、日中仕事をしながら通えることが決め手でもありました。(現在は昼間2年制のみです。)その頃はまだ言語聴覚士が国家資格になっただけで、就職も難しいと言われていました。ところが

2年生で行った実習先でお世話になった婦長さんのおかげで、無事就職することが出来ました。臨床でのお仕事1年目、どうしても全力でやり切れておらず、対応が適当になってしまいうこともありました。ある日担当していた失語症の患者様が、突然外来に来なくなりました。その方のソーシャルワーカーさんより連絡があり、どうやらご本人が「もう行きたくない」「このまま通っても良くなる気がしない」と言っているとのこと。とてもショックを受けましたが「ああ、そうだよな。適当だったことは分かっていただんだな…」と実感しました。こんな自分分はダメだ、STをやめてしまおうかとも思いましたが、もう一度自分にチャンスをと別の患者様を担当しました。今度は70代の食べられない女性でした。胃ろうをする判断もありましたが、なるべく口から食事をと必死に対応しました。あれこれ試行錯誤した結果、徐々に回復して少しずつながら口から食事がとれるようになったのですが、突然その方から「もう良いのよ」といわれ、結局胃ろうをする事になりました。その無念さと申し訳ない気持ちで、ご家族に「私の力がなくて、申し訳ありませんでした」と謝りに行きました。ところがその時「西片先生には本当にお世話になりました。ここまでして頂いて、とても感謝しています。ありがとうございます。」とお礼の言葉を頂いたのです。この時の経験は今でも忘れられません。



西片先生ってこんな人

好きなことはロードバイク、ボルダリング、登山(奥多摩にも行きます)、お子さんとの時間、写真(カメラ) Olympus OM-D E-M1)、ベット達との時間(トイプードル、子猫2匹(茶トラ、こげ茶トラ)。初めて行った「登山」は実は後から思えばトレランだった!?

救助ヘリを2度も呼んだ経験まで持つ(必ずしもご本人が救助されたわけではありません…)登山のスペシャリスト!

「ブタが喋る?」

いつも朗らかで優しい印象の西片先生。とても書ききれないほどのエピソードをお持ちで、しかもそれぞれが珍しい経験ばかりです。養豚場でのお話の中に「知っていましたか?ブタは実は言葉を教えたなら喋るんですよ!」(もちろんウソなのですが編集者である私は、不覚にも一瞬信じました…)「なんて冗談をサラッといれ込んでこられるユーモアたっぷりな先生です。」

「一生懸命」が報われる職業に

不動産営業では、必ずしも「一生懸命」「まじめに」頑張った人が報われるわけではありませんでした。同じ営業の仲間には、要領がよく、一言でいえば「ズルい」人もいました。他人の手柄を奪うようなことなく、一生懸命頑張った人が、頑張った分、報われる仕事があったらいいなと思っていました。その後タマリハの学生時代に実習で、ある失敗をしてしまいました。そのことが分かってすぐに謝罪に行き、正直に自分の失敗を伝えました。その時のことを担当の婦長さんが覚えていてくださって、当時STの就職が厳しい状況でしたが就職することが出来ました。

編集後記



またヒマラヤ登山のお話もまだまだご紹介しきれないほどでした。そして何より臨床経験において、まさに一生懸命に真摯に患者様と向き合ったというお話では、思わずホロッとさせられました。そんな何事にも全力で取り組む姿勢が、西片先生が学生さんに接する姿の原点なのかもしれません。



多摩リハビリテーション学院

作業療法学科・理学療法学科(高卒3年課程) 言語聴覚学科(大卒2年課程)

